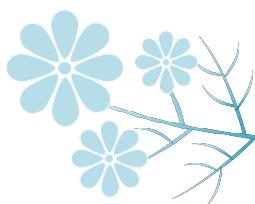


第3章

街(まち)づくりの理念と目標



1. 街（まち）づくりの理念

本格的な人口の減少時代に入り、急速な少子高齢化の進行や地方の衰退、国・地方を合わせた財政悪化等、喫緊の課題が山積している。

平成17年10月に生田原町、遠軽町、丸瀬布町及び白滝村の4町村が合併して誕生した本町は、歳入の大半を国からの地方交付税に頼らざるを得ない脆弱な財政基盤である上に、膨大な公債残高⁴を抱えていたことから、公共施設や補助金等の見直しによる経費の節減を行うとともに、国等に対して要請を行い、まちづくりの貴重な財源となる地方交付税を確保する等、安定的な行財政運営に努めてきた。

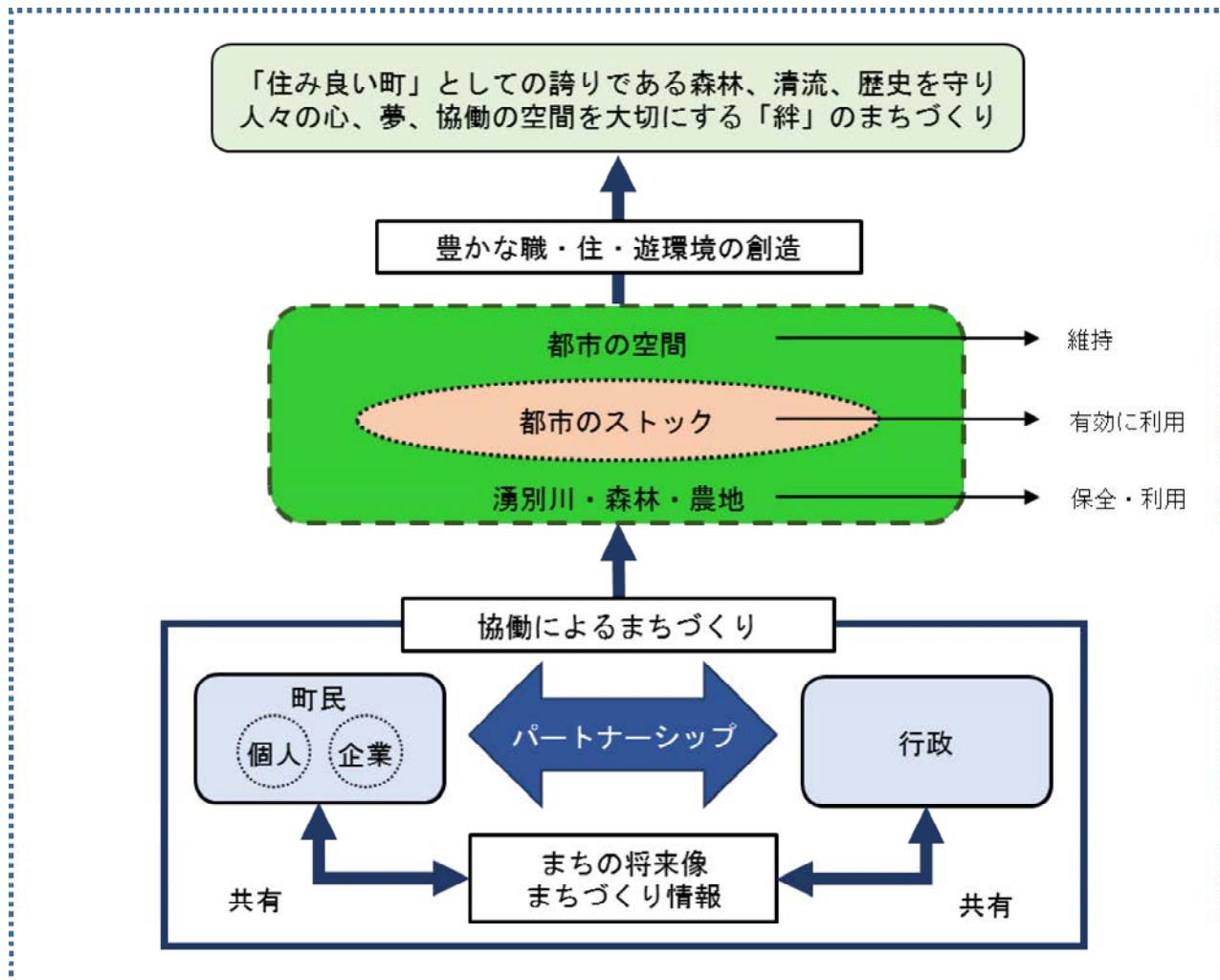
その一方で、人口の減少を最小限に抑制するため、各地域の個性と特色を生かしながら、地場産業の振興や医療、福祉、教育等を充実させ、町民の福祉の向上と合併後のつながりを大切にした魅力あふれるまちづくりを進めてきた。

また、本町は、先人たちの努力により、今日までこの地方の中心地の一つとして発展してきた歴史があり、第1次産業である農林水産業と1次産品を製造・加工する製造業をベースに、国や北海道の出先機関、医療、教育、商業施設等の都市機能が集積し、道路や鉄道、バス等の交通動線の中心ともなっており、中でも医療や教育の面では、近隣の市町村からの通院・通学といった結びつきが一層強まっている。

町村合併して10年、さらに次の10年に向け本町がこれからも安定的な行財政運営を行いつつ、この地方の中心地として在り続けるためには、町民とまちが目的と情報を共有しながら、互いの立場を尊重し、協働してまちづくりを進めていくとともに、近隣の市町村等と連携したまちづくりを進めることが必要である。

そのためには、このまちの将来に夢や希望を抱きつつ、「ふるさと遠軽」を誇りに思う強い絆で結ばれたまちづくりを目指す。

⁴ 町が建設事業等の財源に充てるために借り入れた資金（町債）の債務残高。



2. 街（まち）づくりの目標

まちづくりの目標は、まちづくりの理念を踏まえながら、遠軽町が固有に持つ、まちのあり方に基づく課題と、遠軽町がおかれ地域・社会のあり方に基づく課題を見据えたものとして設定する。

|| 遠軽町の状況と課題（第2次総合計画より）

(1) 人口減少と少子高齢化の進行

- ・ 人口は減り続け、高齢化率は33.1%（平成26年6月末現在、住民基本台帳）で全国平均を上回り、すでに約3人に1人が高齢者である。
- ・ 高齢者が安心して暮らせる環境づくりを進めるとともに、次代を担う子どもたちが増えよう、子どもを産み育てられやすいまちとしていくことが求められている。

(2) 安全・安心に対する関心の高まり

- ・ 本町はこれまで大規模な災害等が少ない地域であり、アンケート結果でも災害の少なさが「生活するのに安心・安全なまち」への評価につながっている。反面、災害に対する意識は高いとはいえない、災害から身を守る意識づくりや対策を促していくことが必要である。
- ・ 増加・巧妙化する消費トラブルからの保護を含め町民が安心して暮らせるための防犯対策や消防救急体制の充実も求められている。
- ・ 食につながる産業振興や健康づくりの面からは、食の安全・安心を大切にしていくことも重要である。

(3) 循環型社会⁵に向けた環境の保全と活用

- ・ 本町の総面積の約9割は森林が占めており、適正に管理・保全していくことが求められている。これらの自然は町民にうるおいや安らぎをもたらしており、アンケート結果でも自然環境に対する評価は高く、若い世代ほど「自然と共生する美しいまち」で在り続けることを望んでいる。
- ・ 次代を担う子どもたちに豊かな自然環境を引き継いでいくためにも、持続可能な循環型社会に向けて、環境へ負荷をかけない新・省エネルギーの導入をはじめ、本町の地域の実情にあった取り組みを検討し進めていくことが求められている。

(4) 高度情報化の進展

- ・ 市街地を中心に光回線による高速通信基盤が整備されているほか、携帯電話の不感エリアも一部を除き解消される等本町でも情報基盤の整備が進んでいる。
- ・ アンケート結果でも「便利で快適に暮らせるまち」を望む声は若い世代で高く、暮らしている場所に関わらず、ビジネスチャンスを生み出したり、日常生活の利便性を高めたりすることができ

⁵ 大量生産・大量消費・破棄の社会から、製品の再生利用や再資源化などを進めて資源の消費をできるだけ抑え、廃棄物ゼロを目指す社会。

るICT⁶の効果的な活用は、本町にとっても重要な課題である。今後も基盤整備を進めるとともに、まちづくりのさまざまな分野で活用していくことが求められている。

(5) 国や地域を越えた関係の深まり

- ・ 基幹産業である第1次産業や1次産品を製造加工する産業を基盤とする本町では、「北海道」「オホーツク」といったイメージやブランド力を活用しながら、産地間競争に負けない地域産業を育てていくことが求められている。
- ・ アンケート結果では、現状に不満で今後の取り組みを求める項目として日常生活関連の項目とともに「観光・レクリエーションの振興」が上位にあげられている。観光客の誘致や、移住・定住の推進、合宿の誘致等、海外も含め町外からの交流人口の増加に向けた取り組みが必要である。

(6) 地方分権の進展

- ・ 地域の課題を自らの意志で解決していくことが今まで以上に求められている今日、「遠軽町まちづくり自治基本条例⁷」に基づき、町民参加による協働のまちづくりをより一層進めていくことが必要である。
- ・ また、今後、地方分権がさらに進み町民のニーズが多様化することにより、本町が担う事務の増加が見込まれる中、限られた人員や財源の使い方を見極めながら、多様なニーズに対応した質の高いサービスを提供していくことが求められている。

街（まち）づくりの目標

第2次総合計画のまちの将来像（総合計画で目指すまちの姿）は「森林と清流 つくる・つながるにぎわいのまち」としている。都市計画マスタープランでもこの将来像を実現するべく計画づくりを行うこととし、これを街（まち）づくりの目標とする。

森林と清流 つくる・つながる にぎわいのまち

⁶ 情報通信技術。当初ITと表現されていたが、情報通信におけるコミュニケーションの重要性をより一層明確化するために「ICT」が使用されるようになった。（Information and communication Technology の略）

⁷ 住民自治に基づくまちづくりの基本原則を定めた条例で「自治体の憲法」ともいわれる。

3. 遠軽町民の未来のライフスタイル

このマスタープランの実現によって期待される将来の町民のライフスタイル（暮らし方）は次のように想定される。

中心市街地のようす

中心市街地は、車社会の進展、大規模店舗の出店、住宅の郊外移転等によって商店街の衰退が進み、界隈性が失われるようになっていた。

しかし、最近では町民の余暇時間が増えたため、商品の販売にとどまらず、生活に密着したサービスが求められるようになってきて、古い店を改修して新しいサービスを始める人が増えてきた。

新しいサービスとしては、パソコン、木工芸、陶芸といった趣味の教室、リサイクルショップ、さらにコミュニティビジネスと称して主婦によるお年寄りの買い物代行サービスの会社を始めたところもあり、商店街に活気が戻ってきた。

また、商店街が主体となって、空き店舗の敷地や公園を組み合わせた広場を造った。そこには、町外からやってきた意欲ある店主達がオープンカフェや屋台を出店し、昼間は買い物や通いごとの主婦の人々で、また、夜はビジネスマンや若者たちでにぎわいを見せている。

駅前の一角には『まちづくりセンター』ができた。ここはボランティアの人たちが、空き店舗を使って開設したスペースで、まちの将来計画や都市計画、工事予定、生活についての情報が揃っていて、図書コーナーやパソコンブースで自由に見ることができる。また町内の歩道の美化についてのワークショップのお知らせも掲示されている。

中心市街地の周辺に目を移すと、開発行為等によって、土地利用の更新が進み、高齢者が安心して住める新しいタイプの集合住宅や若年層向けのアパートが増えてきた。市街地の人口増加が生活関連サービスの需要を生み、店舗利用が進んだり、高齢者と若者の交流が盛んになってきて、まちなかの活気にも一役買っているようだ。

駅周辺は、遠軽町が交通の要衝であったころの面影を残しながらも、東西のアクセスがスムーズになり、バリアフリー化が進んできた。

交通ネットワークのようす

旭川紋別自動車道の（仮称）遠軽豊里インターチェンジが完成し、北海道縦貫自動車道とつながり旭川・札幌圏までのアクセス時間が大幅に短縮された。これを機会として、行政・民間が一体となって、観光客・ビジネス客向けのサービス向上に取り組んだ結果、入り込みが徐々に増えてきた。

また、インターチェンジの近くには、旭川圏・札幌圏の市場に向けた物流施設が立地し、ビートや野菜、加工食品等農作物を効率的に送り出している。

西町・南町・市街地・学田地区それぞれの「ふるさと軸」は交通機能と景観整備が進められ、安心して歩ける歩道が喜ばれている。街路樹は各地区の自治会や有志の住民によって手入れがされている。

歩道整備が進んで、トイレや休憩場所が整備されてきたので、休みの日は徒歩や自転車で散歩をする人々に喜ばれている。ウォーキングを趣味にする人々には、湧別川のサイクリングロードをぐるっとまわって、まちなかの本屋やカフェまで行って帰ってくるコースが人気だ。

地区コミュニティのようす

住宅地には行き止まり道路が多く、行き来に苦労したものだが、今は住民の意思を尊重し、防災や除雪のこととも考えた区画道路整備が進められてきた。この結果、共同の除雪、歩道やゴミステーションの美化の活動が芽生える等、地区コミュニティの活発化も進んでいる。

近くの公園には地域の人々が植樹した木々が育ってきて、夏の暑い時期に子どもを遊ばせるのにちょうどいい。公園は退職された町内の方がリーダーとなって若い人たちとボランティアで掃除している。

古くなった集会施設は、住民とまちが協力して多大な資材や経費を掛けずに改造することができた。この結果、自治会の予算は、文化イベントに使うことができ、近所の交流の輪が広がってきた。今度は、「集会施設周りの広場を飾り付け、新しい夏のイベントをやろうか。」という計画が進んでいる。

町民の間では、今、健康づくりがブームだ。げんき 21 を中心に色々なスポーツ施設があるので、街（まち）の中はお年寄りや若い人で賑わっている。健康や福祉の相談も気軽にでき、立派な病院もあるから、とても安心して住むことができると評判で、町外で働いていた人が戻ってくる等の動きが生まれている。

4. 街（まち）づくりの全体的な方向

● 計画的な街（まち）づくりを目指す

今後もより一層顕著となる、少子高齢化や人口の減少傾向、限られた財政状況のなかで、町民の多種多様な生活ニーズに応えるため、重点的・効率的な取り組みによる計画的な街（まち）づくりを進める。

- ・ 都市計画における地方分権に対応し、各地域の実情や住民の価値観について十分に考慮し、町民とまちの対話により意見を反映する住民参加型街（まち）づくりを一層積極的に進める。
- ・ 特別用途地区、特定用途制限地域及び地区計画等、都市計画の制度を複合的・弾力的に活用し、中心市街地の活性化に向けた都市空間形成、住宅地の街区形成、道路整備と連携した街並み整備等を積極的に進める。
- ・ （仮称）遠軽豊里インターチェンジの供用、低未利用地の適切な開発、宅地の開発等の状況に対応した適切な土地利用を推進するため用途地域等の見直しを進め、合わせて道路網・都市計画道路等の見直しを検討する。

● 快適な街（まち）づくりを目指す

「量より質」「精神的豊かさ」へのニーズを踏まえて、既に整備されてきた都市的なストックを活かして町民が豊かさを実感できる街（まち）づくりを進める。

- ・ 都市施設は量的な充足、機能レベルの充足に加え、全体レベルや地区レベルの方向性と連携して、住民の満足度の高い整備や維持管理を進める。
- ・ 都市計画道路網においては、道路交通機能に加え、街並み整備、歩行系ネットワークの充実とバリアフリー化により、あらゆる人に優しい道づくりを進める。
- ・ 都市計画公園は、全体として量的には充足しているため、今後はユニバーサルデザイン⁸の導入等広域交流を促進する整備と活用、市街地内の緑化促進、住区内の公園の利用度の向上を進める。

● 人に優しい街（まち）づくりを目指す

交通弱者を含めた全ての町民が健やかに暮らせる街（まち）づくりを積極的に進める。

- ・ 町民がもっとも力を入れて欲しい施策として挙げる保健・医療・福祉施設は、各々の機能充実と施設間のバリアフリー対策を進める等、一体的な街（まち）づくりを進める。
- ・ 公園・緑地等の新設・改良にあたっては、バリアフリー化の導入に努め、高齢者・障がい者が利用しやすい整備を進める。
- ・ 町内循環バス等の生活路線を確保し、また、町営バス路線の利便性向上を検討する。
- ・ 交通弱者に配慮した助成の継続や交通体系の整備について検討する。

⁸ ユニバーサルデザイン（universal design）：特別な人に特別なものを提供するのではなく、誰でも使えるように配慮されたデザイン。

● 安心できる街（まち）づくりを目指す

町民が健康で文化的な生活を営んでいく基礎となる災害対策や安全性の向上のために、遠軽町地域防災計画との整合を図る。

- ・ 湧別川及び支流の治水対策と安全度を高めていく。
- ・ 消防活動・避難路確保の確実性を向上するため、狭幅員道路・袋地の解消を検討する。
- ・ 広域避難場所の適切な配置を進める。

● みんなが参加する街（まち）づくりを目指す

遠軽町の街（まち）づくりは計画段階から町民に広く情報公開を進めるとともに、利害関係者だけでなく、責任ある住民の立場で多様な意見を反映する都市計画を目指すものとする。

- ・ 新たな市街地整備、街並み整備等では、街（まち）づくりを議論する場を設け、施策に反映していく。
- ・ 地区レベルの街並みづくりを促進するため、地区計画や住民が提案する都市計画要望等が進められるよう、積極的な情報公開と必要に応じた啓発活動を行う。